

中で提供されているサイト内検索エンジンを使用し、「災害」「歯科」「口腔」「栄養」「防災」に関する情報があれば抽出し、コンテンツ名とURLを記録した。また、研究を行う過程で、健康危機管理に関する他の健康危機管理分野・厚生労働科学研究班の研究会や勉強会等に参加して、知りえた情報も、Web検索に資するものは積極的に取り入れた。また、関係省庁内にある「リンク集」を積極的に活用し、リンク先情報コンテンツにも有用な情報があれば、そのコンテンツ等とサイトの主体・情報提供者名・著作者等とURLを記録した。研究者1名(KH:保健医療従事者、歯科医師)が有益な情報だと判断した場合に、「健康危機管理支援ライブラリーシステム

(H-CRISIS:国立保健医療科学院 <http://h-crisis.niph.go.jp>)」ワーキンググループに情報提供を行った。また、同様に、「ガイド情報ライブラリー(国立保健医療科学院;
<http://h-guide.niph.go.jp>)」での情報提供にふさわしいと思われる内容は、ワーキンググループに情報提供を行なった。

2、インタビューおよび意見交換と、その際の資料共有

<インタビューおよび意見交換の対象>

- (1) Dr. Maythinee Petju, DDS, MPH, MMA. Chief of Dental Department, Phangnga Provincial Health Office, Thailand) と、スタッフ
- (2) Dr. Atiphan Pimkhaokham, Department of Oral & Maxillofacial surgery, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University (Bangkok, Thailand)
- (3) Chulalongkorn University 大学 (Bangkok, Thailand) スタッフ
- (4) The Deputy Dean for Foreign Affairs (The Faculty of Dentistry, Mahidol University, Bangkok, Thailand) と、大学スタッフ
- (5) Dr. Pornpoj Fuangtharnthip

(Department of Hospital Dentistry Mahidol University, Bangkok, Thailand)

- (6) Dr. Athaporn Limpanyalers (Expert from the Bureau of Claim Administration), Dr. Prachakvich Lebnnak and Dr. Bunjong Chumpa (National Health Security Office, Thailand (Jasmine International Tower)
- (7) Dr. Srasak Police General Hospital (Bangkok, Thailand)
- (8) Takuapa Provincial Hospital (Thailand) スタッフ
- (9) Dr. Thanapan Chaiyo (Bangmoong Health Center, Thailand) ほか
- (10) Mr. Nitinai Sornsongkarm, Tsunami victim identification and repatriation center (Thailand)
- (11) Koyaonoi Community Hospital (Thailand) スタッフ
- (12) Dr. Dr. Marut Lekphet (Prunai Health Center, Thailand) ほか
- (13) Dr. Sinikka Salo (University of Oulu, Finland)
- (14) 石上和男氏 (新潟県福祉保健部副部長)
- (15) 原幸太郎氏 (前 在タイ王国日本国大使館一等書記官・沖縄県警察本部警備部長)
- (16) 鈴木浩司氏 (日本大学松戸歯学部・スポーツ・睡眠健康歯科)

上記の、(1) Phangnga Provincial Health Office、(8) Takuapa Provincial Hospital、(9) Bangmoong Health Center、(12) Prunai Health Center のスタッフへのインタビューについては、Dr. Maythinee Petju (タイ人) が同行し、中久木・鶴田・星に対して、タイ語→英語の通訳を行ってくれた。また、必要に応じてパワーポイントスライドでの説明を受けたが、その間、主に、英語でのプレゼンテーションが行われた。質疑応答は、主に、英語で行われた。

インタビューは全てをIC録音し、英語部分および日本語のフルテキストおこしを行った。タイ語でのディスカッションは、テキストおこしや翻訳を行

ったわけではなく、インタビュー内容としての記録は、現在のところ、当研究班の班員には理解できない。また、この報告書に記述する内容をバックトランスレーションしてご本人達の許諾を取ったわけではないので、発言者を明確にせず、ポイントを列記するにとどめる。

他の方々へのインタビュー内容は、同行した、中久木・鶴田両氏の報告書の内容を参考にさせていただきたい。

C. 研究結果

1. 資料の検索・収集・インターネットによる情報提供

- (1) 医学中央雑誌の検索結果から、テーマに合致する論文 36 件を採用した (Accessed 10th March, 2008)。また、ハンドサーチにより抽出・採用した 45 件をあわせて、資料 1 に 83 件の一覧を示す。
- (2) (1) の 83 件の中で、論文書誌情報が CiNii にて公開されているものは、32 件あった (資料 1)。また、抄録の公開が行われているものは 2 件であった (資料 1) (Accessed 10th March, 2008)。
- (3) 医学論文検索メディカルオンラインにて、本文 (PDF 等) がダウンロード可能なものは 6 件であった (資料 1) (Accessed 10th March, 2008)。
- (4) 東邦大学医学メディアセンター・診療ガイドライン情報の中には、テーマに合致するガイドライン・指針等は情報提供されていなかった (Accessed 10th Mar 2008)。
- (5) 日本医療機能評価機構・M i n d s の中には、テーマに合致するガイドライン・指針等は公開されていなかった (Accessed 10th March, 2008)。
- (6) Google 検索エンジンにて、検索・抽出された有用な Web ページは、資料 1 - 3 中に示した。今年度は研究開始年度であるため、テーマを絞り込み過ぎず、災害の備え/対応/被災時の報告に関する情報は、歯科・栄養のみに限局せず、広く情報を収集した。また、他の健康危機管理分野の研究班員の主催する研究集会等にも積極的に参加し、他の省庁・公的研究機関・大学関係者等と情

報交換した内容から、ヒントとなる Web ページを積極的に選択し、閲覧した。さらに、国立保健医療科学院・健康危機管理研修の講師等と情報交換し、得られた情報から、有用と思われた Web ページも閲覧した。その作業過程で、抽出・記録され「ガイド情報ライブラリー」の掲載コンテンツとして提案を行い、平成 19 年 5 月から平成 20 年 3 月 10 日までに採用され、掲載されたものは、資料 1 の中で*印で示した。

また、H-C R I S I S に掲載を提案し、採用されたものの画面参考イメージを、資料 2 に示した。

2. インタビューおよび意見交換と、その際の資料共有

<インタビュー報告～被災地域の保健センタースタッフからの情報>

- (1) Phangnga Provincial Health Office、(8) Takuapa Provincial Hospital、(9) Bangmoong Health Center、(12) Prunai Health Center のスタッフへのインタビューとディスカッション内容から
- ・ Takuapa 地区では、2006 年の就学前の幼児のランパンドカリエスの割合は、70.5%であったが、50%に抑えたいと思っている。就学前の幼児で、4 つの地区で津波の被害にあったが、それらの地区のう蝕保有率は 67.78%で、とても高い割合だった。26 の小学校があるが、かなりの数の学校が津波の被害にあった。甘いコンデンスミルクや、チョコやコーラなどの甘いお菓子を与える親も多く、問題である。26 の小学校をひとつの保健所で担当している。
- ・ Takuapa 地区には、9 つの保健所がある。保健省の目標では、7 歳小学校生に口腔内診査を行い、第 1 大臼歯の 50%にはシーラントを行いたいと考えている。また、フッ素のバーニッシュも積極的に進めたいと考えている。私たちの調査で、7 歳時の 92.3%に口腔内診査を行い、83%にシーラント処置ができた。
- ・ ブラッシングがまだ、ひとりではできない幼児に

は、両親の仕上げ磨きが大切であること教育してゆく。

- ・ マヒドン大学歯学部・バンコク歯科協会、王立巡回診療などの組織が、出前診療を行ってくれており、日本・カナダ・ドイツの援助を受けている。
- ・ 親の教育はどのように行っているのか？～毎週月曜に、公民館で、親の口腔保健教室を開催しており、先生がスライドを使って、説明している。
- ・ パンガ地区の教育レベルは、ほとんどの親が小学校しか卒業していない。
- ・ Takuapa 病院には 4 人の歯科医がいる。この地区の歯科はほとんどが公営で、民間のクリニックはひとつだけ。公営（政府の）病院では、基本的な治療は、無料で受けられる。日本と違い、病院の経営母体により、診療費が違う。
- ・ 保健所（保健センター）にデンタルナースを多く、おきたいと思っている。パンガ地区には、合計 25 人デンタルナースしか配属されていない。9 つの保健センターのうち、2 つしかデンタルナースがいない。
- ・ タイでは、子どもの、甘いお菓子の摂取量の多さや、肥満・糖尿病が問題となっている。そこで、我々は、幼稚園で無糖ミルクに切り替えたり、スナック菓子を与えないように、指導している。
- ・ タイ全体で、デンタルナースの学校は 5 つしかない。パンガ地区では、毎年ひとりか二人のデンタルナースが就職するのみである。
- ・ 最近の国の経済の悪化で、政府は、公務員削減を行っており、デンタルナースという職業も削減の対象となりやすい。中央政府は、我々の地域の劣悪な状況が理解できていない。
- ・ 津波被害で、約 200 名の児童が親をなくした。片親をなくした者も、両親をなくした者もいる、そのほとんどが親戚を頼っている。津波被害のあとは、親は就労せざるを得ないので、子どもの口腔ケアに時間を割けない。
- ・ 津波の後で、この地域では、子ども達の PTSD も大変大きな問題である。
- ・ 津波の後、皮膚の感染がかなり増えた。2 年経過しても、まだ、深刻な問題だ。パンガ地区には皮

膚科医もおらず、対応できていない。Takuapa 地区にも皮膚科医はいない。

- ・ 河川の衛生状態も大きな問題であろう。
- ・ 保健センターが予防歯科的なプロジェクトに関与できており、その意味では、日本より保健センターが機能している。
- ・ この地区の保健センターには医師はいない。
- ・ 津波の被害後の遺体の鑑定で、タイの人は 18% しか、歯科検診結果やカルテを持っていなかった。また、0.8%の人しかレントゲンの記録がなかった。欧米人は、94%が歯科カルテを持ち、75%がレントゲンの記録があった。タイ人の検診記録が少ないことに加えて、質も問題があり、100 人の検診結果のうち、鑑定に使えたのは、たったの 7.4% だった。それで、タイ人には歯科による鑑定が、2%くらいの人にしか使えなかった。そうすると、高いコストの DNA 鑑定に頼ることになる。先進国のご遺体ほど、安い費用で鑑定できるという結果になった。アメリカやカナダの被災者はほぼ 100%鑑定できた。ヨーロッパの人も 97%くらいであったが、タイやアジアの遺体の鑑定率は 30% くらいであった。

<インタビュー報告～歯科の鑑定にタイ政府チームとして加わった経験から>

以下、National Health Security Office (NHSO) でのインタビュー結果から、重要なポイントをあげてゆく。

被災後、NHSO から、ひとりの歯科医師スタッフが鑑定スタッフのひとりとして救援に関わったが、就職したばかりでもあり、ずっと被災地につめていくことができず、専門知識が少ない、現地の歯科医師たちの統率は、困難を極めた。この歯科医は、工学部も勉強をした経験があり、鑑定のためのデータベースを急遽ビジュアルベーシックで開発したが、国際歯科鑑定チームの投入後は使われることはなかった。

- ・ 鑑定用のデータベースソフトウェア)を購入することも当初タイチームにはできなかった。
- ・ 急遽開発したデータベースに対しても、様々な

専門家が現れ、改修などを提案し、開発者がバンコクに戻っている間に情報が錯綜するなどの混乱があった。遺体の PM 情報の記録の取り方も、統一がはかられるまで、かなりの困難を伴った。

・ タイチームの記入内容の不統一などがあり、国際チーム投入後に、全て PM 情報の取り直しをすることになった。

(13) Dr. Sinikka Salo (University of Oulu “Current status of Oral health care in Finland) より、平成 18 年度・19 年度に、国立保健医療科学院・専門課程国際保健分野において、講義を行っていただいたが(研修担当：岡本悦司)、この研究班員としても、オブザーバー出席をした。特に、平成 20 年 1 月 30 日の講義では、テレビ会議システムによりフィンランドにいる、Dr. Sinikka Salo より同時講義配信を受けた。津波被害の際の遺体鑑定に、Dr. Sinikka Salo は、フィンランドチームとして参加した。

(14) 石上和男氏(新潟県福祉保健部副部長)からご提供いただいた資料の中で、報告書への掲載許諾をいただいた資料を、資料 3、4 として示した。

資料 3 は、行政歯科技術職連絡会のみクロードな便りであり、普段は、メーリングリストの中で共有しているものであるが、この研究のためにご提供いただいた。

資料 4 は、石上和男氏よりご提供いただいた多数の資料の中から、中久木班の研究テーマに合致し、新潟県での地震被害時の資料の中で、歯科保健医療従事者・栄養士の活動に資すると思われる部分を、抜粋したものである。

(15) 原幸太郎氏へのインタビュー

原氏は、在タイ王国日本国大使館一等書記官として、被災地で、日本人ご遺体鑑定チームと日本政府・国内警察・国際チームとの調整に関わった。原氏が警察関係者であり、警察医・警察歯科医に関する知識も豊富であったことが、有利に働いて

いる。また、原氏は、偶然、子どもの頃にもタイでの生活を経験しており、タイ語も英語も堪能で、タイ人遺体鑑定チームのタイ語の記録さえ読みこなした。タイ人のメンタリテイ、習慣、宗教観を理解していることは、現地の寺院でのご遺体の火葬などにも立ち会った際に、大きな助けとなったであろう。当時より、原氏は、Dr. Maythinee Petju と密接にタイ語でもコミュニケーションを取り、現地タイチームにも国際チームにも協動的に接している。被災地の混乱した状況は、原氏の論文(資料 5：原氏および出版社のご協力により、各論文の巻頭ページの複写を掲載)の中で鮮明に記述されているが、日本人ご遺体の高い返還率は、混乱した状況の中でも、日本人歯科医師達と大使館スタッフが冷静な判断と作業を遂行した賜物であろう。

(16) 鈴木浩司氏との、メールでのコミュニケーションからは、歯科診療車両の貸し出しに関する貴重な情報を得た、災害の規模により、このような車両が必要な場合も想定される。普段から、この車両を防災訓練等にも稼働させており、急なメンテナンスを想定しても有利であろう。鈴木氏からは、貸し出しに関する実務レベルの情報もご提供いただき、車両の写真とともに資料 6 に示した。この報告書を、病院歯科あてにも、広く配布することで、このような緊急車両の存在も周知していけるであろう。

D. 考察

- ・ 津波の被害で、経済的な打撃や親を亡くした子どもたちの PTSD も大きな問題であったことは、日本の地震被災地と同様であったとおもわれるが、平常時に、どれだけ、地域住民への保健サービスが行き届いているかという問題が、より鮮明に被害状況を悪くしているとおもわれる。
- ・ 平常時に、下水の処理や河川の衛生に行き届いた行政サービスが出来ていれば、皮膚の感染などの流行はかなり予防できると思われる、
- ・ 先進国からの被害後の援助が受けられたとはい

え、この地区に皮膚科医などの配置や救援は届いていないようである。

- ・ 日本国内では、水害後の家屋の消毒などにも、地域のマニュアルが整備されており、そのような知識ももっと啓発する必要がある。
- ・ バンコクなどの都会の水道など整備状況と地方の格差が今でも大きい。その格差の大きさが、被害をより大きなものとして、よりその影響を長引かせることにつながっていると予想できる。
- ・ 私たちは、主に、歯科の調査に来たわけであるが、公衆衛生全体の援助をテーマとして考えている、他の厚生労働科学研究班も、この度、タイへの調査をしており、研究班同士の横のつながりが必要であると感じた。それは、日本での被災地域の専門職種の横のつながりが大切であるのと、全く同じことが言える。
- ・ NHSOのように、国の医療安全やソーシャルセキュリティを考える組織に、津波被害後の救援に関わった人材がいることが、この国にとって後に、良い結果をもたらす可能性がある。日本国内でも、被災地での経験や知識が、いつも他地域の被災に100%生かされない現実があり、中央政府と地域間、または、隣接する地域間での情報の共有は、国を超えて共通の課題である。
- ・ タイの地方とNHSOの大きな近代的な高層ビルのある都会で清潔な地域との健康格差や社会格差を肌で感じた調査であったが、国全体の保健サービスの向上と底上げは、日本での地域格差を考える意味でも、収穫の多い調査となった。
- ・ 被災地に人を送り込める余力が、その組織にあるかどうか、大きな問題である。中央側からの人の配置が充分であるかは、平常業務もワークシェアできているか、適正に人が配置できているかに影響を受ける。日本での帰国後の、前大使館職員のインタビューからも、同様なことを感じた。つまり、日本人現地政府関係者は代替要員もなく、働くことになったが、原の論文にもある通り、救援にあたるスタッフの疲労や心のケアも重要な課題である。
- ・ 口腔保健だけの問題を切り離して考えることは、

不可能であることは、明らかであり、被災後の行政サービスが、総合的に横に効率的につながっていることが大切であると、強く感じられた。

- ・ 歯科鑑定のためのデータベースや、IT 機器の投入は、日本でも大規模災害（首都直下型地震など）を想定して、人的リソースも含め、検討しておく必要がある。数百名も飛行機事故で、被害にあった人の名簿が確定的な場面でも、過去に歯科医師大量投入では、苦勞した経験があるが、その後に、警察歯科医・法歯学者を取りまとめる機構が整備できたわけもない。DVIフォーマットでさえ、国内で統一できるか疑問である。
- ・ 数十名の日本人被災者のためにも、日本からの法歯学専門家が出向いていけたことは、日本人の鑑定に有利に働いたといえる。
- ・ NHSO スタッフが、就職したばかりでバンコクに度々帰らなくてはいけない状況であったことも、このインタビューで当時の担当者（大学関係者で鑑定チームへの人を派遣した側＋保健センター関係者＋被災地歯科医＋当時の政府関係者）が集まったことで明らかになったわけである。それぞれの立場を理解し協調関係を保つことを、急に編成されたチームで行わざるを得ないわけで、混乱時期にも、お互いの意思疎通とお互いの専門知識を協調的に引き出し合える関係構築が重要である。
- ・ タイチームの PM 情報の不正確さや不統一は、日本側鑑定スタッフに、二重の作業を強いることになった。国際チームの時間はかかるが正確な調査がどれだけ重要であったかが、タイ人鑑定ボランティアスタッフに理解されているか疑問である。
- ・ 原氏の論文は、日本政府の対応、国際警察・タイ警察との関係調整を振り返る意味でも、他には無い、貴重な資料となる。医療鑑定スタッフ側の科学学術誌からは得られない生々しい当時の様子を伺い知ることが出来る。また、マスメディアの心無い報道内容にさらされるスタッフの心労も計り知れないものがあつた。
- ・ 日本でも、大規模な被害で多数の鑑定をするこ

とになった時に、マスコミのコントロールに毅然と取り組むべきである。鑑定結果や遺体の早急な引渡しを求める声を制して、正確な鑑定をすることが、結果的に、遺体の誤返還を防ぐ重要なポイントとなったことを、報道関係者にも周知する必要がある。

- ・ 昨今の食品安全等のマスメディアの反応をみても、広報担当側との平常時からのコミュニケーションが重要であると感じられる。
- ・ 私たちが、今回のタイ調査で知り合った現地タイ人スタッフ達の名前を、Dr. Sinikka Salo が記憶しておらず、鑑定チームの組織全体の大きさを想像させた。それは、つまり、全体を統括することにつきまとう困難さを想像させるに充分であった。
- ・ オーストラリアやヨーロッパ諸国は、国全体で歯科鑑定チームをまとめられている印象があり、日本の体制整備も急務であろう。
- ・ 歯科／栄養専門家が適切に災害時に活躍し、住民へのサービス向上につながられるように、一層の体制整備と啓発が求められる。

E. 今後の研究計画

日本国内で、日本語でインターネット上で活用できる情報を、増やしていくことと、その情報へのアクセサビリティを向上させていくことに取り組みたい。実際には、国立保健医療科学院が運営する Web コンテンツなどへの掲載や、その周知も広く行っていきたいと考えている。

F. 研究発表・論文

- 1) Hoshi K, Mori R, Hayashi K, Doi T. Challenge in developing public health preparedness guidelines – a Japanese example. 4th Annual G-I-N Conference ; 2007.8;Tronto. 4th Annual G-I-N Conference Program. p.77.
- 2) 星佳芳, 山口一郎, 安藤雄一, 野村義明, 磯野威, 泉峰子, 藤井仁, 細井香, 和田耕治, 佐藤敏彦. 厚生労働科学研究における保健医療福祉ガイドライン等の作成と情報の公開手法について. 第 66 回日本公衆衛生学会総会 ; 2007.10 ; 愛媛. 第 66 回日本公衆衛生学会総会抄録集. 日本公衆衛生雑誌(2007.10)54(10)特別付録 :243.
- 3) 泉峰子, 星佳芳, 石川雅彦, 大野賀政昭, 熊川寿郎, 杉山英男, 武村真治, 橘とも子, 筒井孝子, 土井徹, 土井由利子, 中板育美, 西村秋生, 東野定律, 平野かよ子, 藤井仁, 藤原真一郎, 水嶋春朔, 山口一郎, 林謙治. 国立保健医療科学院「ガイド情報ライブラリー」におけるインターネット情報配信. 第 66 回日本公衆衛生学会総会 ; 2007.10 ; 愛媛. 第 66 回日本公衆衛生学会総会抄録集. 日本公衆衛生雑誌 (2007.10) 54(10)特別付録 :243.
- 4) 磯野威, 橘とも子, 郡山一明, 山口亮, 星佳芳, 水嶋春朔, 遠藤弘良. 地域健康危機管理 e-Learning プログラムの開発および評価に関する研究. 第 66 回日本公衆衛生学会総会 ; 2007.10 ; 愛媛. 第 66 回日本公衆衛生学会総会抄録集. 日本公衆衛生雑誌(2007.10) 54(10)特別付録 :256.
- 5) 藤井 仁, 土井 徹, 星佳芳, 水嶋春朔. 健康危機対応における個人情報の利用と保護に関する研究. 第 66 回日本公衆衛生学会総会 ; 2007.10 ; 愛媛. 第 66 回日本公衆衛生学会総会抄録集. 日本公衆衛生雑誌(2007.10)54(10)特別付録 :335.
- 6) Tachibana T, Izumi M, Isono T, Hoshi K, Mizushima S, Endo H. Evaluation of e-Learning Programs: Developing and Assessing Programs for Regional Public Health Emergency Management . The 39thAPACPH Conference Abstract 2007
- 7) 星佳芳. 健康危機管理支援情報とエビデンス収集力. EBMジャーナル 2008Vol.9 No.3 (印刷中)
- 8) 星佳芳. 健康危機管理支援情報のインターネット情報配信. ヘルスサイエンス・ヘルスケア 2008(投稿中)

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

H. 参考文献

- 9) Cover Story Dental FOCUS. Vol.15 No.1, 12-28. January-June 2005. (タイ語)
- 10) Maythinee Petju. Importance of dental records for victim identification. 特別講演会配布資料 (於 東京医科歯科大学) 2006年8月1日
- 11) Salo S. Forensic Dentistry and Disaster Victim Identification. 国立保健医療科学院・専門課程国際保健分野講義配布資料.2007/01/09
- 12) 藤井仁, 星佳芳, 土井徹, 水嶋春朔, 安富潔. 健康危機発生初動時の個人情報の流れに関する研究. 第20回公衆衛生情報研究協議会研究会; 2007. 2; 香川. 第20回公衆衛生情報研究協議会研究会抄録集. p. 15.
- 13) Petju M, Suteerayongprasert A, Thongpud R, Hassiri K. Importance of dental records for victim identification following the Indian Ocean tsunami disaster in Thailand. Public Health. 2007 Apr;121(4):251-7. Epub 2007 Feb
- 14) Salo S., Salo H., Liisanantti A., Reponen J., Data transmission in dental identification of mass disaster victims. Journal of Forensic Odonto-Stomatol 2007, 25; No. 1, June: 17-22
- 15) 仲井宏充、原岡智子. 健康危機管理の概念についての考察. 保健医療科学 2007; 56(4):378-386.
- 16) 新潟県地域防災計画 (2007年7月修正) <http://www.pref.niigata.lg.jp/bosaikikaku/1197562559321.html> (2008年2月20日アクセス)
- 17) Keika HOSHI, Rintaro MORI, Kenji HAYASHI, Toru DOI (National Institute of Public Health, Japan, National Collaborating Centre for Women's and Children's Health, UK) CHALLENGE IN DEVELOPING PUBLIC HEALTH PREPAREDNESS GUIDELINES - A JAPANESE EXAMPLE. Abstract of the 4th G-I-N Conference, Toronto, Canada; August 2007
- 18) 原幸太郎. タイにおける邦人行方不明被災者の捜索活動(上)-スマトラ沖大地震及びインド洋津波-. 警察学論集 第60巻第12号 72-97. 2007.
- 19) 原幸太郎. タイにおける邦人行方不明被災者の捜索活動(上)-スマトラ沖大地震及びインド洋津波-. 警察学論集 第61巻第1号 167-184. 2008.
- 20) 星佳芳. 健康危機管理支援情報とエビデンス収集力. EBMジャーナル 2008Vol.9 No.3 (印刷中)
- 21) 星佳芳. 健康危機管理支援情報のインターネット情報配信. ヘルスサイエンス・ヘルスケア 2008(投稿中)

参考資料 1

文献データベース等による検索・収集結果資料一覧

資料1：資料一覧

資料1-1：医学中央雑誌検索結果+ハンドサーチによる学術雑誌等の一覧

タイトル	出典	Web公開
新潟県中越地域における支援活動	新潟大学歯学部ニュース 平成16年第2号 (106号) Page8	CiNiiに掲載無し。Googleで、PDFで全文ヒット http://www.dent.niigata-u.ac.jp/ShigakubuNews/106/100_08.pdf
被災地における口腔ケア支援・調査に関する活動報告	新潟大学歯学部ニュース 平成16年第2号 (106号) Page9	CiNiiに掲載無し。Googleで、PDF全文ヒット http://www.dent.niigata-u.ac.jp/ShigakubuNews/106/100_09.pdf
新潟県中越地域における病院歯科の実態調査アンケート集計結果における10年前との比較	新潟歯学会雑誌 33巻2号 Page243-251 (2004. 01)	CiNiiに書誌情報あり
災害時医療における応急義歯製作について 阪神淡路大震災に学ぶ	日本補綴歯科学会雑誌 39巻特別 Page135 (1995. 10)	CiNiiに書誌情報あり
災害時の歯科救済活動に関する一考察 北海道南西沖地震被災者に対する歯科補綴学的対応と調査から	日本補綴歯科学会雑誌 39巻1号 Page114-122 (1995. 02)	CiNiiに書誌情報と抄録あり。PDFリンクは学会方針により公開なし
新潟県中越地域における歯科医療支援活動について	日本集団災害医学会 第11回総会抄録 (2006年2月)	Googleで、1件ヒットタイトルのみ掲載のページあり http://www.disaster.archi.tohoku.ac.jp/jadm-sendai/schedule.pdf の7ページ目
国際災害支援における歯科医療の役割 パキスタン北部地震・医療チームに参加して	日本口腔外科学会雑誌 53巻5号 Page329 (2007. 05)	CiNiiに掲載無し
新潟県中越地域における歯科医療支援活動について	日本口腔外科学会雑誌 第51巻 (総会特別号) Page217	CiNiiに掲載無し
中越地域被災地域における歯科保健医療に関する 特に仮設住宅入居者の地震前後の口腔清掃などの状況	口腔衛生学会雑誌 57 (3) P208-213	CiNiiに書誌情報と抄録あり (PDFリンクは学会方針により公開なし)。メデイカルオンラインにて論文全文テキストのPDF公開あり。
中越地域被災地域における歯科保健医療に関する 特に仮設住宅入居者の地震前後の口腔清掃などの状況	口腔衛生学会総会抄録 2005年 P429	CiNiiに掲載無し
中越地域被災地域における地震前後の小・中学校歯科健康診断結果の比較	口腔衛生学会総会抄録 2006年 P486	CiNiiに書誌情報あり
スマトラ沖地震・津波後のインドネシアにおける国際緊急援助活動について	口腔衛生学会雑誌 55巻4号 Page397 (2005. 08)	CiNiiに書誌情報あり
阪神・淡路大震災被災地における緊急歯科保健調査結果	口腔衛生学会雑誌 46巻3号 Page370 (1996. 07)	CiNiiに書誌情報あり
阪神大震災後の口腔内要望調査	口腔衛生学会雑誌 46巻3号 Page360 (1996. 07)	CiNiiに書誌情報あり
阪神大震災後の口腔内要望調査および巡回診療結果	口腔衛生学会雑誌 45巻4号 Page548-549 (1995. 09)	CiNiiに書誌情報あり
阪神大震災における東加古川団地仮設歯科診療所の実態について	日本口腔科学会雑誌 46巻3号 Page346 (1997. 07)	CiNiiに掲載無し
新潟県中越地域における歯科診療所の被災および復旧の状況	日本歯科医療管理学会雑誌 42巻3号 Page201-208 (2007. 11)	CiNiiに書誌情報と本文公開あり
阪神大震災後に係る委員会懇談調査1〜111総括	日本歯科医療管理学会雑誌 36巻1号 Page38-39 (2001. 06)	CiNiiに書誌情報あり
阪神淡路大震災から3年 被災地区歯科医院の現状	日本歯科医療管理学会雑誌 33巻2号 Page144 (1998. 10)	CiNiiに掲載無し
災害と歯科医療 北海道南西沖地震被災者への歯科救済活動	日本歯科医師会雑誌 47巻7号 Page653-655 (1994. 10)	CiNiiに書誌情報あり
災害と歯科医療 中華航空機墜落事故への対応	日本歯科医師会雑誌 47巻7号 Page656-658 (1994. 10)	CiNiiに書誌情報あり
阪神・淡路大震災の歯科医療救済活動における高齢者の受診状況	老年歯科医学 10巻3号 Page319 (1996. 03)	CiNiiに掲載無し
阪神大震災において神戸市立病院を受診した高齢患者の検討	老年歯科医学 10巻3号 Page318-319 (1996. 03)	CiNiiに掲載無し
阪神・淡路大震災から得たもの 義歯紛失患者に対する応急義歯の作製	歯界展望別冊デンタルオリンピック'95 Page348 (1996. 05)	CiNiiに掲載無し
阪神・淡路大震災における病院歯科の初動体制	歯界展望 85巻6号 Page1332-1337 (1995. 06)	CiNiiに掲載無し。メデイカルオンラインに本文PDFあり。
教訓は生かされたか? 新潟県中越地域における歯科診療の成果と課題 復興半ばの中越地域被災地から	歯界展望 106巻2号 Page384-388 (2005. 08)	CiNiiに掲載無し。メデイカルオンラインに本文PDFあり。
教訓は生かされたか? 新潟県中越地域における歯科診療の成果と課題 新潟県中越地域における歯科医療支援活動 支援活動の概要と長期的歯科医療支援活動	歯界展望 106巻3号 Page613-619 (2005. 09)	CiNiiに掲載無し。メデイカルオンラインに本文PDFあり。
教訓は生かされたか? 新潟県中越地域における歯科診療の成果と課題 歯科医師会を中心とした危機管理体制構築の視点から	歯界展望 106巻4号 Page827-832 (2005. 10)	CiNiiに掲載無し。メデイカルオンラインに本文PDFあり。
教訓は生かされたか? 新潟県中越地域における歯科診療の成果と課題 被災地へ向かう歯科医師会の視点から	歯界展望 106巻5号 Page1051-1054 (2005. 11)	CiNiiに掲載無し。メデイカルオンラインに本文PDFあり。
被災地における歯科医療の問題と提言 阪神大震災における歯科診療を経験して (1)	歯界展望 86 (5) 1209-1220, 1995	CiNiiに書誌情報あり
被災地における歯科医療の問題と提言 阪神大震災における歯科診療を経験して (2)	歯界展望 86 (6) 1343-1349, 1995	CiNiiに書誌情報あり

タイトル	出典	Web公開
歯科界の潮流 災害時の歯科医療 災害時の歯科医療	歯学92巻春季特集 Page78-84 (2005. 03)	CiNiiに書誌情報あり
歯科界の潮流 災害時の歯科医療 災害時の歯科医師会の対応について	歯学92巻春季特集 Page85-88 (2005. 03)	CiNiiに書誌情報あり
歯科界の潮流 災害時の歯科医療 災害時における歯科大学附属病院の歯科医療支援活動について 新潟県中越地域における歯科医療支援活動に参加して	歯学92巻春季特集 Page89-94 (2005. 03)	CiNiiに書誌情報あり
歯科界の潮流 災害時の歯科医療 災害時における歯科医師の役割 歯科医療救護・歯科的個人識別	歯学92巻春季特集 Page95-102 (2005. 03)	CiNiiに書誌情報あり
スマトラ沖地震被害者の身元確認活動における歯科の役割	東京都歯科医師会雑誌 53巻5号 Page281-287. 巻頭(2005. 05)	CiNiiに掲載なし
自衛隊の災害派遣(医療支援)に関するアンケート調査-災害拠点病院について-	日本集団災害医学会雑誌、2001、6、105-110	CiNiiに書誌情報あり
歯科医師によるトリアージ-自衛隊横須賀病院における災害対応訓練の試み-	日本集団災害医学会第6回総会、2001、 P298	CiNiiに掲載なし
長野オリンピック冬季競技大会における歯科受診者の分析	日本集団災害医学会雑誌、2003、8、7-11	CiNiiに書誌情報あり
日本の大学病院における大量災害に対する準備の評価	日本集団災害医学会雑誌、1998、3、35-41	CiNiiに書誌情報あり
北欧に学ぶ災害教育・災害医学教育のあり方	日本集団災害医学会第6回総会、2001、P226	CiNiiに掲載なし
看護大学生に対する国際緊急医療援助活動の実践的教育とその評価	日本集団災害医学会雑誌、2006、10、293-301	CiNiiに書誌情報あり
災害医学教育のあり方	日本集団災害医学会 第8回総会、2003、P182	CiNiiに掲載なし
阪神大震災の記録 - 歯科口腔外科	兵庫医科大学医学会雑誌 特別号(1996年)、 112-113	CiNiiで書誌情報のみ
兵庫県南部地震の被災状況とそれの対応について：兵庫県歯科医師会・村井俊郎会長に聞く	日本歯科医師会雑誌 47巻12号 Page4-10	CiNiiに書誌情報あり
阪神大震災：僻地歯科診療バス「やまびこ号」震災地神戸へ：都道府県歯科医師会だより	日本歯科医師会雑誌 47巻12号 Page62	CiNiiに掲載なし
阪神淡路大震災 歯科医療はどう対応し、何を学んだか：現場からの声を聞く：座談会	日本歯科医師会雑誌 48巻4号 Page29-44	CiNiiに書誌情報あり
歯科医院の危機管理：大震災から得たものを風化させないために：座談会	日本歯科医師会雑誌 51巻4号 Page37-56	CiNiiに書誌情報あり
神戸市東灘保健所・歯科衛生士の立場から	公衆衛生 /vol. 59 no. 7 医学書院. 1995. 7. p. 455-456	CiNiiに掲載なし
避難所での歯科医療活動	公衆衛生 /vol. 59 no. 7 医学書院. 1995. 7. p. 480-481	CiNiiに掲載なし
大規模災害時における歯科医療供給体制の構築についての研究	神戸市立病院紀要 第35号 神戸市衛生局. 1997. 3. p171-172	CiNiiに掲載なし
災害時医療で歯科は何をすべきか	日歯広報、1424、8-11、2007	CiNiiに掲載なし
阪神大震災、当日の経緯	歯科と麻酔、9(1)、47-48、1995	CiNiiに掲載なし
東加古川団地における歯科巡回診療事業	兵庫歯科学院雑誌、20(1)、11-21、1997	CiNiiに掲載なし
被災地で有機的に歯科保健活動を行うために1	歯科衛生士、19(11)、23-34、1995	CiNiiに掲載なし
被災地で有機的に歯科保健活動を行うために2	歯科衛生士、19(11)、35-47、1995	CiNiiに掲載なし
災害時の「緊急医療」再考	歯科衛生士、21(2)、38-44、1997	CiNiiに掲載なし
あの阪神淡路大震災から2年目を迎えて	歯科衛生士、21(1)、36-44、1997	CiNiiに掲載なし
神戸発「がんばっています」保健所の歯科衛生士・保健所の歯科衛生士・震災後3ヶ月の記録	デンタルハイジーン、15(11)、1003-1015、 1995	CiNiiに掲載なし
阪神大震災における歯科医療救護活動を振り返る 1	デンタルダイヤモンド、7、173-178、1994	CiNiiに書誌情報あり
阪神大震災における歯科医療救護活動を振り返る 2	デンタルダイヤモンド、8、181-186、1995	CiNiiに書誌情報あり
災害における歯科医療のあり方	デンタルダイヤモンド、10、178-186、1996	CiNiiに書誌情報あり
新潟県中越大地震に学ぶ歯科医療救護活動のあり方	明倫歯誌、9(1)、123、2006	CiNiiに書誌情報あり
新潟県中越大地震歯科医療支援チーム参加報告	明倫歯誌、8(1)、68-69、2005	CiNiiに書誌情報あり

タイトル	出典	Web公開
新潟県中越大地震歯科医療救護活動報告	明倫歯誌、8(1)、69-71、2005	CiNiiに書誌情報あり
大規模災害時における歯科医師会の救護体制に関する実態調査	口腔衛生学会誌、57(4)、488、2007	CiNiiに掲載なし
能登地震直後の避難所における医療支援の概要	医学のあゆみ 224巻3号 Page233-234(2008.01)	CiNiiに掲載なし
新潟県中越沖地震 新潟県中越地震後の新潟県災害時透析医療体制の検証	歯床透析 23巻12号 Page1853-1854(2007.11)	CiNiiに掲載なし
新潟県中越沖地震の被災状況および対応等について	医業ジャーナル 43巻9号 Page75-78(2007.09)	CiNiiに掲載なし
タイ津波被災地救護歯科医療活動における年少者の状況	小児歯科学雑誌 45巻2号 Page298(2007.05)	CiNiiに掲載なし
新潟県中越大地震における歯科医療救護活動からみた歯科衛生士の課題	日本歯科衛生学会雑誌 1巻2号 Page34-40(2007.02)	CiNiiに書誌情報あり
新潟県中越大地震に学ぶ歯科医療救護活動のあり方	明倫歯科保健技工雑誌 9巻1号 Page123(2006.03)	CiNiiに学会抄録pdf公開あり
新潟県中越大地震歯科医療救護活動調査からみた今後の課題	日本歯科衛生士学会術雑誌 34巻1号 Page36-37(2005.08)	CiNiiに掲載なし
大規模災害と口腔ケア	兵庫歯科学院雑誌 30巻1号 Page39-43(2007.01)	CiNiiに掲載なし
【災害医療】大規模災害における口腔ケアの重要性 関連死をふやさないために	保固連 862号 Page35-40(2005.05)	CiNiiに書誌情報あり
スマトラ地震と生活への衝撃(The Sumatran earthquakes and its impact on human lives)(英語)	松本歯学 32巻2号 Page153-154(2006.08)	CiNiiに掲載なし
KDC-SAS(神奈川県立大学南東アジア支援団)によるタイ津波被災地救護歯科医療活動に参加して	昭和歯学会雑誌 26巻1号 Page98(2006.03)	CiNiiに掲載なし
神奈川県立大学南東アジア支援団(KDC-SAS)によるタイ津波被災地救護歯科医療活動 歯科技工部門(義歯製作)	神奈川県学 41巻抄録集 Page74(2006.12)	CiNiiに掲載なし
KDC-SAS(神奈川県立大学南東アジア支援団)の第2回タイ津波被災地救護歯科医療活動について	神奈川県学 41巻抄録集 Page33(2006.12)	CiNiiに掲載なし
スマトラ沖大地震によるタイ津波被災地救護調査活動	神奈川県学 40巻抄録集 Page85(2005.12)	CiNiiに掲載なし
神奈川県立大学南東アジア支援団(KDC-SAS)によるタイ津波被災地救護歯科医療活動	神奈川県学 40巻抄録集 Page60(2005.12)	CiNiiに掲載なし
医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン 平成16年12月24日 厚生労働省 *	若年者心疾患対策協議会誌、2005; 32(2)16-17	
新潟県中越沖地震におけるDMATの活動	Medical Tribune 2007年10月11日 p54	

資料1-2: 刊行物・報告書・資料等

(*印の情報は、この研究班の資料収集の一環として集められ、平成20年3月10日までに「ガイド情報ライブラリー」にて紹介されたもの)

タイトル	出典	Web公開
災害初動時におけるトリアージに関する研究 *	平成11(1999)年度 厚生科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野 医療技術評価総合研究事業主任研究者: 山本 保博(日本医科大学付属病院 高度救命救急センター)	http://mhlw-grants.niph.go.jp/
新たな救急医療施設のあり方と病院前救護体制の評価に関する研究 *	平成17(2005)年度 厚生科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野 医療技術評価総合研究事業主任研究者: 小濱 啓次(財団法人日本救急医療財団)	http://mhlw-grants.niph.go.jp/
日本における災害拠点病院と災害時派遣医療チーム(DMAT)のあり方に関する研究 *	平成16(2004)年度 厚生科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野 医療技術評価総合研究事業主任研究者: 辺見 弘(独立行政法人国立病院機構災害医療センター)	http://mhlw-grants.niph.go.jp/
自治体職員のための危機管理読本 *	自治体管理研究会著 都政新報社 2002年10月	
書籍「アレスト」Mook 4. 多数傷病者対応 *	(株)永井書店	
リスクマネジメントシステム構築のための指針 JIS Q 2001 *	日本規格協会編2003年9月30日出版	
リスク学事典 *	日本リスク研究会編 TBSブリタニカ 2000年	

タイトル	出典	Web公開
増補改訂版 リスク学事典 *	日本リスク研究会編 阪急コミュニケーションズ 2006年7月7日	
危機管理と行政 グローバル化社会への対応 *	中野章編著 ぎょうせい2005年4月	
行政機関等個人情報保護法の解説(増補版) *	総務省行政管理局監修 社団法人行政情報システム研究所編集 ぎょうせい 平成2005年1月31日発行 平成2007年2月15日増補版3版発行	
医療・介護 個人情報保護法 *	前田正一著 金芳堂 2006年4月10日発行	
医療・介護の個人情報保護対策の実践 *	坂本孝司監修 村岡三千雄、岸本敏和著TKC出版 2006年2月14日発行	
非常災害時対応マニュアル *	東京：日本栄養士会、1995.9 (BN13854183) iv, 147p (図共)	
命を支える食生活を守るために阪神・淡路大震災/栄養士の活動記録と対策 *	社団法人 兵庫県栄養士会	
あ、地震だ！ 災害対策歯科医療救護マニュアル	神奈川県歯科医師会	
神戸市立中央市民病院歯科同門会誌	神戸市立中央市民病院歯科同門会	
阪神・淡路大震災 歯科健康診査事業の集計と分析	兵庫県歯科医師会	
大震災と歯科医療 阪神・淡路大震災からの報告と提言	兵庫県歯科医師会	
震災でわかった歯と食のはなし	神戸市歯科医師会	
災害時歯科医療救護活動の指針 ー北海道歯科医師会防災・災害対策ー	平成10年3月 北海道歯科医師会	
災害時歯科医療救護活動の指針 ー北海道歯科医師会防災・災害対策ー 改訂版	平成18年2月 北海道歯科医師会	
新潟県中越地震医療支援活動報告書	新潟大学歯学総合病院	
新潟県中越地震 震災の教訓を未来につなぐ	社団法人 新潟県歯科医師会	
平成19年度保健所管理栄養士政策能力向上シンポジウム テキスト	財団法人 日本公衆衛生協会	
平成18年度 保健所管理栄養士 政策能力向上シンポジウム テキスト		
平成17年度 保健所管理栄養士 政策能力向上シンポジウム テキスト		
日本公衆衛生学会・自由集会「健康危機に関わる管理栄養士の活動について」配布資料	平成19年10月24日(水) 18:00-20:00	
新潟県災害時栄養・食生活支援活動ガイドライン	新潟県	
千葉県災害時歯科活動マニュアル	千葉県歯科医師会、平成18年	
新潟中越地震 歯科医療支援活動報告書	日本歯科大学新潟生命歯学部	
これからの非常食・災害食に求められるものー災害からの教訓に学ぶー		
健康危機管理時の栄養・食生活支援ガイドライン	平成19年3月 財団法人日本公衆衛生協会	
阪神大震災保健所からの報告(神戸市中央保健所) 避難所歯科診療活動報告(37-38)/ 震災時における歯科保健活動は(91-95)	阪神大震災保健所からの報告(神戸市中央保健所) 1995.7 富下まゆみ	
おまえらもはよ逃げてくれ(神戸医療生協の活動記録) 歯ブラシ・マスク・うがい薬で巡回(181-184)	神戸医療生協	
阪神・淡路大震災一救護活動の記録ー 歯科応急診療活動に参加して (大阪府歯科医師自動車連盟救助奉仕団)	阪神・淡路大震災一救護活動の記録ー 日本赤十字社、199-200	
地震 その時あなたはどのように 二度の地震(新潟県中越大地震と中越沖地震)を経験して(参考:資料3)	石上和男(行歯会会長・新潟県福祉保健部副部長) 行歯会だより(第28号) 2007年10月(行歯会=全国行政歯科技術職連絡会)	

資料1-3：新聞記事・リーフレット等

(*印の情報は、この研究班の資料収集の一環として集められ、平成19年度3月10日までに「ガイド情報ライブラリー」にて紹介されたもの)

タイトル	出典	Web公開
災害による被害を最小限に	広報 としま 平成20年(2008年) No. 1381、1面 発行：豊島区	
ネットナビ+α 災害 対策、情報サイトから	日本経済新聞(夕刊)2007年11月22日(木曜日)	
被災地の子どもたちは今 新潟県中越沖地震	朝日小学生新聞2007年7月21日土曜、第12490号1面	
ニュースあれこれ「柏崎市で入居申し込み始まる 中越沖地震 仮設住宅」	2007年(平成19年)7月28日 土曜日 第12497号(日刊)東①(1)	
(リーフレット)「震災対策も万全～地震に強い水道づくり～」*	編集・発行：東京都水道局サービス推進部広報サービス課	http://www.waterworks.metro.tokyo.jp/ http://www.waterworks.metro.tokyo.jp/k/index.html(i-mode用) http://www.waterworks.metro.tokyo.jp/pp/suido/kyusui_ichiran.htm(給水拠点一覧) http://www.waterworks.metro.tokyo.jp/pp/suido/kyusui_point.htm(給水拠点地図) http://www.waterworks.metro.tokyo.jp/pp/banzen/index.html(リーフレット) http://www.waterworks.metro.tokyo.jp/k/index.html(i-mode用)

資料1-4：Web公開情報

(*印の情報は、この研究班の資料収集の一環として集められ、平成19年度3月10日までに「ガイド情報ライブラリー」に収録されたもの)

タイトル	出典	Web公開
広域災害救急医療情報システム・災害対策マニュアル Emergency Medical Information System (EMIS) *	厚生労働省・広域災害救急医療情報センター	http://www.wds.emis.or.jp
財団法人 日本救急医療財団 *		http://www.gqzaidan.jp 、 http://www.irc.or.jp/english/ (English)
日本赤十字社 JAPANESE RED CROSS SOCIETY *		http://www.irc.or.jp/
総務省 消防庁 防災・危機管理 e-カレッジ *		http://www.e-college.fdma.go.jp/top.html
長岡歯科医師会1新潟県中越沖地震と長岡歯科医師会	長岡歯科医師会	http://www.nagaokada.com/6katudo-1.html
長岡歯科医師会2新潟県中越沖地震対応の記録	長岡歯科医師会	http://www.nagaokada.com/6katudo-1.html
長岡歯科医師会3資料編	長岡歯科医師会	http://www.nagaokada.com/6katudo-1.html
長岡歯科医師会4会員の声	長岡歯科医師会	http://www.nagaokada.com/6katudo-1.html
厚生労働省健康危機管理基本指針 *		http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/kenkou/sisin/index.html
地域における健康危機管理について～地域健康危機管理ガイドライン～ *	平成13年3月	http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/kenkou/guideline/index.html
地方厚生(支)局における健康危機管理実施要領	平成14年 1月策定。平成18年 8月改訂	http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/kenkou/chihou/index.html
平成18年度健康危機管理時の栄養・食生活支援 における保健所管理栄養士業務ガイドライン(PDF) *	全国保健所管理栄養士会	http://www.ho-kanri.jp/2_topics/top.html (20080310現在、pdfリンク未だはられていない)
自然災害発生時における 医療支援活動マニュアル 平成16年度 厚生労働科学研究費補助金 特別研究事業「新潟県中越沖地震を踏まえた保健医療における 対応・体制に関する調査研究」第6部 災害時の保健活動 ～保健師の派遣と受け入れの指針～ *	兵庫県立看護大学看護学部地域看護学 教授 井伊 久美子	http://www.nagaoka-med.or.jp/shizen_manual200510/08dai6bu.html http://mhlw-grants.niph.go.jp
平成19年(2007年)新潟県中越沖地震関連情報 *	新潟県	http://bosai.pref.niigata.jp/bosaiportal/0716iishin
中越沖地震における原子力施設に関する資料 *	経済産業省	http://www.nisa.meti.go.jp/00000004/04a00000.htm#a3
警察大学校・国際警察センター/警察政策研究センター National Police Academy/Police Policy Research Center (PPRC) *		http://www.npa.go.jp/keidai/keidai.html http://www.npa.go.jp/keidai/keidai_files/seisaku1.html http://www.npa.go.jp/keidai/keidai-en.html(English)
警察政策学会 *		http://www.asss.jp/gaiyou.htm
災害・ボランティアデータバンク	総務省消防庁	http://www.fdma.go.jp/volunteer/index.cgi
阪神・淡路大震災関連情報データベース	総務省消防庁	http://sinsai.fdma.go.jp/search/
地域防災計画データベース	総務省消防庁	http://www.fdma.go.jp/chikikibousai/
国民保護計画データベース	総務省消防庁	http://www.fdma.go.jp/kokuminhogo/
地域安心安全ステーションデータベース	総務省消防庁	http://www.fdma.go.jp/anshin/index.html
阪神・淡路大震災教訓情報資料集	財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構	http://www.hanshin-awaji.or.jp/

タイトル	出典	Web公開
外国語版「地震防災ガイドブック」・「命のパスポート」 * Earthquake Disaster Prevention Guidebook/Life Passport	静岡県地震防災センターShizuoka Prefectural Earthquake Preparedness Education Center	http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/ (Japanese) http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/english/index.htm (English) http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/portuguese/index.htm (Portuguese) http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/chinese/index.htm (Chinese) http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/spanish/index.htm (Spanish) http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/korean/index.htm (Korean) http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/tagalog/index.htm (Tagalog)
防災に役立つリンク集	(財) 消防科学総合センター	http://www.isad.or.jp/ http://www.isad.or.jp/cgi-bin/hp/index.cgi?ac1=ZL00&ac2=&Page=hpd tmp
内閣府 防災情報のページ	内閣府	http://www.bousai.go.jp/
内閣府 中央防災会議「首都直下地震対策専門調査会」	内閣府	http://www.bousai.go.jp/iishin/chubou/shutochokka/
内閣府 中央防災会議「首都直下地震対策専門調査会」(第3回会議)	内閣府	http://www.bousai.go.jp/iishin/chubou/shutochokka/3/ (H16年に行われた会議の議事録、「東京都説明資料」あり)
災害伝承情報データベース	総務省消防庁	http://www.saigaidensho.soumu.go.jp/
災害体験情報共有システム	独立行政法人防災科学技術研究所	http://issdms.bosai.go.jp/bosai/isp/main.htm
ハザードマップポータルサイト	国土交通省	http://www1.gsi.go.jp/geowww/disapotal/index.html
耐震ナビ	静岡県	http://www.taishinnavi.pref.shizuoka.jp/index.html
防災@nifty	ニフティ	http://rescuenow.nifty.com/mobile/
災害時ナビ	KDDI	http://www.au.kddi.com/ezweb/service/saigai/index.html
NPO法人・NBCR対策推進機構 *		http://www15.ocn.ne.jp/~cbern/
能登半島地震(平成19年3月25日発生)に関する情報	石川県 県民文化局 県民交流課 広報広聴室	http://www.pref.ishikawa.jp/kikaku/fukkou/fukkou_plan1.html
中越沖地震における原子力施設に関する資料 *	経済産業省	http://www.nisa.meti.go.jp/00000004/04a00000.htm#a3
新潟地震から30年「未来への記憶」	新潟地震対策連絡会事務局(このページの内容は、平成6年6月7日発行の冊子によるもの。企画・監修 新潟地震30年事業実行委員会 発行者 新潟地震30年事業実行委員会事務局、社団法人 北陸建設弘済会)	http://www.hrr.mlit.go.jp/bosai/niigataiishin/contents/mokujii.html
地域保健対策の推進に関する基本的な指針 厚生省告示第374号 *	平成12年3月(一次改正)平成15年5月(二次改正)	http://www.mhlw.go.jp/topics/2003/10/tp1030-2.html
個人情報保護法に対応する情報システムの安全管理指針 *	平成16(2004)年度 厚生科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野 医療技術評価総合研究 主任研究者: 山本 隆一(東京大学 大学院情報学環) 2005年4月21日	http://mhlw-grants.niph.go.jp/
個人情報の保護・個人情報保護法令 * Personal Information Protection/Act	内閣府 Act, Cabinet Order and Others Cabinet Office, Government of Japan	http://www5.cao.go.jp/seikatsu/koin/index_sub001.html (Japanese) http://www5.cao.go.jp/seikatsu/koin/index.html (Japanese) http://www5.cao.go.jp/seikatsu/koin/index_en.html (English)
明治大学危機管理センター *	明治大学	http://www.kisc.meiji.ac.jp/crisishp/ia/index.html
Coordination and Crisis Center of the Belgian government *	Belgian crisis center	http://www.influenza.be/eng/documents/CGCCR.ppt (English) http://crisis.ibz.be (French)(Dutch)
慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所(G-SEC) Keio University Global Security Research Institute *		http://www.gsec.keio.ac.jp/index.html (Japanese) http://www.gsec.keio.ac.jp/index_e.html (English)
安心・安全の科学研究教育センター 高度リスクマネジメント技術者育成ユニット *	横浜国立大学	http://www.anshin.ynu.ac.jp
厚生労働省 災害救助・救援対策 *	厚生労働省	http://www.mhlw.go.jp/bunya/seikatsuhogo/saigaikyuioi.html
緊急地震速報について *	気象庁	http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/EEW/kaisetsu/index.html
神戸大学付属図書館 震災文庫 デジタルギャラリー Great Hanshin-Awaji Earthquake Disaster Materials Collection (EDMC). Kobe University Library *		http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb/ (Japanese) http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb/e-index.html (English)
愛知県大規模災害時医療救護マニュアル -愛知万博に備えて- *	平成16(2004)年度 厚生科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 新興・再興感染症研究 主任研究者: 山本 保博(日本医科大学付属病院(高度救命救急センター) 2005年7月26日)	http://mhlw-grants.niph.go.jp/
日本集団災害医学会 Japanese Association for Disaster Medicine *		http://square.umin.ac.jp/jadm
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial Disaster, Reduction and Human Renovation Institution *		http://www.dri.ne.jp (Japanese) http://www.dri.ne.jp/english (English)
安全工学会 Japan Society for Safety Engineering *		http://www.soc.nii.ac.jp/issue3

タイトル	出典	Web公開
JR東日本安全安心工学総括寄付講座 *	東京大学	http://www.u-tokyo.ac.jp/public/public01_170929_i.html http://www.u-tokyo.ac.jp/res01/d01_05_01_i.html http://www.ireast.co.jp/press/2005_1/20050913.pdf
災害時地域精神保健医療活動ガイドライン *	2003年1月17日	http://www.ncnp-k.go.jp/katudou/h12_bu/guideline.pdf (466KB)
災害時の電話利用方法『優先電話（災害時に優先的に取扱う固定電話及び携帯電話）』（消防、警察、官公庁、公共機関、報道機関等用） *	社団法人 電気通信事業者協会 Telecommunications Carriers Association (TCA)	http://www.tca.or.jp/infomation/disaster/index.html http://www.tca.or.jp/index-e.html (English)
NTT東日本「災害用伝言ダイヤル171」 Disaster Emergency Message Dial (171), Disaster Prevention Countermeasures *	NTT東日本 (NTT EAST)	http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/index.html http://www.ntt-east.co.jp/saigai_e/qa/voice171/v_008.html (English) http://www.ntt-east.co.jp/saigai_e/voice171/hayawakari.html (English)
災害用ブロードバンド伝言板 (web171) *	NTT東日本 (NTT EAST)	http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/index.html http://www.ntt-east.co.jp/saigai/web171/index.html http://www.ntt-east.co.jp/index_e.html (English) http://www.ntt-east.co.jp/ptd_e/basis/disaster.html (English)
災害用ブロードバンド伝言板 (web171) *	NTT西日本	http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/index.html http://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/
iモード災害用伝言板サービス *	NTTドコモグループ(NTT DoCoMo Group)	http://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/ http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi http://www.nttdocomo.co.jp/english/ (English) http://www.nttdocomo.co.jp/english/info/disaster/index.html (English)
災害用伝言板サービス（他社携帯・PHSおよびパソコンなどから安否情報を確認する場合） *	KDDI・沖縄セルラー (au by KDDI)	http://www.au.kddi.com/notice/dengon/index.html http://dengon.ezweb.ne.jp/ (au以外の携帯・PHSおよびパソコンなどから安否情報を確認する場合)
災害用伝言板 *	ツーカー東海 (TU-KA by KDDI)	http://www.kddi.com/tu-ka/tokai/service/dengon/index.html
「災害用伝言板」サービス *	ウィルコム(WILLCOM)	http://dengon.clubh.ne.jp http://www.willcom-inc.com/ja/info/dengon/index.html
不測時の食料安全保障マニュアル *	農林水産省	http://www.kanbou.maff.go.jp/www/station/manual.pdf (688KB)
防災業務計画	農林水産省	http://www.maff.go.jp/i/saigai/index.html http://www.maff.go.jp/i/saigai/pdf/plan.pdf
兵庫県こころのケアセンターHyogo Institute for Traumatic Stress *		http://www.j-hits.org (Japanese) http://www.j-hits.org/english (English)
栄養改善マニュアル *	主任研究者： 杉山 みち子 (神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部教授) 平成18 (2006) 年3月	http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/topics/051221/ http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/topics/051221/dl/05a.pdf (770KB)
個人情報保護法に対応する情報システムの安全管理指針 *	平成16 (2004) 年度 厚生科学研究費補助金 健康安全確保総合研究 分野 医療技術評価総合研究 主任研究者： 山本 隆一 (東京大学 大学院情報学環) 2005年4月21日	http://mhlw-grants.niph.go.jp/

参考資料2

健康危機管理支援ライブラリーシステム（H-CRISIS）への掲載事例

資料2：健康危機管理支援ライブラリーシステム（H-CRISIS）への掲載事例

「命を支える食生活を守るために（兵庫県栄養士会）」

この資料の収集と電子化・Webコンテンツ化は、中久木班の研究の一環で行われ、兵庫県栄養士会の協力を得て、H-CRISISに掲載したものです（掲載許諾日：2007年10月16日）。

<input type="checkbox"/> 厚生労働省からの情報 <input type="checkbox"/> 厚生労働省からの通知・事務連絡 <input type="checkbox"/> 健康危機管理チェックリスト <input type="checkbox"/> 健康危機管理評価シート	<input type="text" value="検索"/>	事例集TOP
<hr/>		
作成日 2007/10/18 14:18 <hr/> 更新日 2008/02/27 22:38 <hr/> 作成者 システム管理者3 <hr/> 分野 災害有事・重大健康危機 <hr/> 都道府県 兵庫県 <hr/> タイトル 命を支える食生活を守るために <阪神・淡路大震災> 栄養士の活動記録と対策 社団法人 兵庫県栄養士会 <hr/> 説明 命を支える食生活を守るために <阪神・淡路大震災> 栄養士の活動記録と対策 社団法人 兵庫県栄養士会 (この資料は兵庫県栄養士会のご協力により、全文PDFにて掲載します。掲載許諾日：平成19年10月16日) 全文をダウンロードする場合は、最下段の「命を支える食生活を守るために(全).PDF」を選択してください。 (この資料の収集・電子化は、平成19年度・厚生労働科学研究・地域健康危機管理研究・中久木班の研究として行われたものを提供していただきました。) <hr/> 添付資料 <ul style="list-style-type: none"> 1-0.PDF(1262.668kb) 2-1.pdf(1020.895kb) 2-2.pdf(634.366kb) 3-1.pdf(1113.844kb) 3-2.pdf(870.741kb) 3-3.pdf(759.145kb) 4-1.pdf(944.607kb) 4-2.pdf(725.851kb) 5-1.pdf(1088.721kb) 5-2.pdf(744.541kb) 命を支える食生活を守るために(全).PDF(9319.935kb) <hr/> キーワード 一般サイトへの公開 一般公開する <hr/> この記事のURL http://h-crisis.niph.go.jp/80/hcrisis/CasedetailServlet?weblogid=410227 <hr/> コメント		
<small>Copyright©2006 National Institute of Public Health ALL RIGHTS RESERVED.</small>		

参考資料 3

石上和男先生ご提供資料

(行歯会だより (第 28 号))

行歯会だより (第28号) 2007年10月(毎月発行)

(行歯会=全国行政歯科技術職連絡会)

地震 その時 あなたは何をどうする

二度の地震 (新潟県中越大地震と中越沖地震) を経験して

石上和男 行歯会会長(新潟県福祉保健部副部長)

平成19年7月16日の中越沖地震には驚きました。まさか2度も地震が襲ってくるとは考えも及びませんでした。午前10時13分に地震が発生してから直ちに登庁し、知事室での災害対策本部会議に出席し(部長が委員、部長は東京で所用のため不在、部長の代理)、我が福祉保健部の任務を確認。部屋に戻ってから課長会議等様々な指示を出して、進行状況を確認しました。

発災後6日目の7月21日には現地保健福祉本部の本部長を命ぜられ、21日間、副本部長の健康対策課長と交代で泊まり込み、柏崎保健所で現地の指揮をとりました。中越大震災の教訓が生きて、様々な対応ができたと思っています。被災したときに行政が念頭に置くべき最も大切だと思う点を列挙しました。

第一点は、現地の情報は待っていては来ないということです。自らが出向いて直接得ること、それを本庁の司令部に伝えること

によって効果的な対策が講じることができません。

第二点目は、現地では必ずマンパワーが極端に不足しますので、外部に応援を強く要請しておくことが大切です。これは実力のある市町村ほど「人の手を借りないでも自分たちができるし、これまでもそうしてきた」と錯覚するのですが、このような主張に対しては「そうではなく、必ず不足するのだから援助を気軽に求めなさい」と強く助言しなければなりません。

第三点目は、先人に習い先手先手を打っていくことです。幸い私達は、神戸や中越大震災の経験を経て、次にどんな事態が起こるのかを予測できたことです。その予測を基に次なる手を打ちました。一方経験のない自治体では、何を行えば良いのか皆目見当がつかず、無駄なエネルギーを費やすのです。

以上の3点を具体的に記述することにし

す。

中越大震災時に最も悔やまれることのひとつは、現地の情報が得られないまま、対応が後手後手になったことです。震源地の川口町や山古志村の情報はまったく入らず、情報が入ってくる市町村の対応に全力を集中していましたが、実はこの2つの町村が決定的なダメージを負っていたのです。これは現地の正確な情報を得るための手段に誤りがあったと言うこととなります。そこで今回は、柏崎市に現地本部を立ち上げて様々な活動を展開しました。

我々現地本部の任務(ミッション)は4つ。①全世帯対象の健康福祉ニーズ調査の実施 ②福祉介護専門職ボランティアの活動支援 ③高齢者総合相談窓口の開設・運営 ④柏崎市の保健福祉部局との連絡調整です。もちろん我々の現地本部の他に、医療救護本部は別のところに設置されていましたし、避難所への保健師派遣やこころのケア、口腔ケア、栄養指導は主に柏崎保健所の地域保健課が中心になって行っていました。

柏崎市は人口9万5千人、世帯数は3万3千で高齢化が進み、1人暮らしの高齢者が多いという特徴を持っています。避難所に避難した人の保健医療ニーズはある程度把握できるものの、在宅にいる人の状況はなかなか把握できないのが普通であり、日が経つにしたがって保健福祉に対するニーズの高まりとともに、「何もしてくれない」という不満が一気に爆発します。また、1人暮らしの高齢者の介護ニーズは日増しに高まり、寝たきり移行や認知症の悪化、介護サービスが提供されない状態が続き、それが重大な結果をもたらすことも少なくありません。そこで、早急に全世帯を専門職の保健師が個別訪問し、必要なニーズを拾い上げ適切なサービスに結びつけることを目的とした健康福祉ニーズ調査を実施しました。全国すべての都道府県や政令市等から

1,500人の派遣を願い、19日間を費やして一気に訪問しました。こんなことは柏崎市と言えども単独でできるはずがない前代未聞の出来事だったのです。しかもこの健康福祉ニーズ調査は、今後災害に会ったところでは必要不可欠な事業となると思います。これも中越大震災の経験で得たもので、各都道府県はそれぞれ保健師等の派遣準備を既にしていますので、心配は要りません。協力を求める姿勢が大切なのです。

次に福祉介護専門職の活動支援について記述します。

災害において福祉介護専門職の組織的な派遣は、これまで福祉施設への要介護者の緊急入所以外にはほとんど行われてきませんでした。ところが実際には、避難所には多くの高齢者や障害者、乳幼児、妊婦さんなどの災害弱者と呼ばれる人も一緒に生活することを余儀なくされています。そこには看護職や事務職は配置されているものの、見守りや相談、誘導や介護などを専門的に支援する福祉介護職はほとんど配置されていないため、極めて不自由な生活を強いられていました。

そこで全国レベルで社会福祉士会、介護福祉士会を通じて派遣をいただき、2,100人の応援をもらい、**初めての試みとして福祉避難所の運営や自衛隊の風呂の入浴支援、生活不活発病の予防等も組織的に行うことができました。**今後は全国規模の派遣協定も視野に新しい展開が必要と思われます。また、「**高齢者の何でも相談窓口**」の設置は**大ヒット**でした。通常は市町村が行うべき仕事なのですが、災害時には懇切丁寧な説明をしてもなお、高齢者にとっては難解なものなのです。ところが社会福祉士会の皆さんにとってはお手の物で、何度も業者や市役所等に連絡をとり、ニーズを叶えるまでの対応をしたので、高齢者は大喜びでした。これも成功した一例です。